



集中コース秋の部開催報告

『山の手入れをするために』

躑躅や楓の紅葉、樺や桂の黄葉、ゆつくりと装いを変えてきた鳩吹公園とまわりの山並み。そんな漸く秋らしくなってきた十一月初旬に、遠くは兵庫県から近くは地元伊那から総勢七名の方々が参加

して下さった集中コース秋の部。  
いきなりのチェーンソーで玉切りはもちろん、地面に立てた丸太での伐倒時の体勢や受け口・つる・追い口の練習。続いてプロット設定と太



体勢

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
編集 坂野慎治  
題字 島崎洋路

さ・高さの測樹。データを解析して相対幹距比・林分形状比・地位指数を求め、現在の林の状態を知り、将来を考えた目標を立て作業の計画を練る作業方針。そして伐倒・集材の作業。

山造りのいろいろを、ぎゅつとぎゅつしり。そんな二泊三日は大忙しでしたが、何の一連の流れのなかで「何



梢と根元

か」を持ち帰って頂くことはできたでしょうか。森林塾はそれを提供することができたでしょうか。

近くの山へ地位指数曲線図と電卓と巻尺を持って出かけて、プロットを作って本数を数え、目測で樹高を予測して林齢を仮定したら...。簡単な森林診断ができる。

忘れてしまったことや新たに発生した疑問、こんな作業計画ができました、間伐前と間伐後の写真など何でもお寄せ下さい。これから何らかの形でお付き合いをさせて頂ければ幸いです。

今回の内容  
集中コース秋の部  
11月1日~3日  
(木・土)

1日(木)

8時55分  
島崎先生の山小屋に集合。日程説明、早川講師の挨拶につきぎ、参加者の方々の自己紹介やオリエンテーション。

9時45分  
小屋下の林道脇で、早川講師からチェーンソーの構造や始動方法の説明を受けた後、班に分かれて丸太を輪切りしてみる。

11時  
地面に立てた丸太を使って、伐倒の練習。まずは、太さの三分の一の深さ・四十五度、太さの十分の一、受け口水平線から指二本分の高さ...と伐倒要領。目標地点にポールを立てて、身体が中心が伐り終わりにくるように立ち位置をとり、チェーンソーを水平に構える。このとき上体を傾けないようにして...伐ってみる。

12時  
小屋へ戻り昼食。

13時  
早川講師による測樹講義。プロット・太さ・高さ・林齢。



胸の高さの直径

13時35分  
小屋近くのヒノキ林で林分調査。プロットを設定し、直径巻尺で胸高直径を測る。樹高は数本を選びワイゼで。

15時  
小屋に戻ってデータ整理。当たり本数と上層樹高、平均直径と平均樹高を計算して、相対幹距比・地位指数・林分形状比といった針葉樹人工林を診断するときの指数を求める。混んでいるかどうか、将来の樹高生長はどうか、今の樹幹のバランスはどうか。そしてこの森林を将来どうしていくか。

17時10分  
講師講評で、今日の講座を終了し、

18時30分  
交流会。



2日(金)

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。

8時30分 早川講師から施業計画策定

方法の説明を受けた後、各班で計画を立てる。八十年生時の大径材素材生産を目標して相対幹距比を20に設定し、今回の施業と四年毎の巡回を兼ねた施業の組合せを採択した班。公園化へ向けて現在の本数を半分に減らし、二十年後の相対幹距比を約25とした班。

11時30分

調査林分で保残木の選定。伐る木も考えてみる。伐つた後の空間を想像してみる。

12時15分

小屋へ戻り昼食。



つるを残して追い口伐り

13時10分

小屋下の林道脇の地面に立てた丸太で受け口・追い口の復習。チェーンソーは切れなくなったら、すぐ目立って。

15時40分

伐倒開始。幹の傾き、枝の付き方、集材方向等を考慮して、伐倒方向を決める。まず退避路を確保して、受け口・追い口。

17時

作業を終了し、小屋へ戻り講師講評、解散。

3日(土)

8時40分

島崎先生の山小屋に集合。各自体操をして現場へ。

9時

伐倒開始。かかり木になりそうなときは、あらかじめ



先山、準備完了!

ロープ牽引の段取りをするか、伐る木の順番を変更するか。枝払いができるだけ梢に向かって左側に立ち、一本一本フルスロットルで幹を扶くるくらいの気持で。造材は傾斜上から、橋渡しになつてい

るから、橋渡しになつていながら木の動きをよくみて。

12時15分

鳩吹公園の芝生の上で昼食。

13時10分

ひっぱりだこ集材開始。合図を決めて役割り分担。丸太のところから本体をみて経路を確認。重い木は動滑車を使いましょう。

14時20分

作業を終了し、小屋で質疑応答。

15時

講師総括、終了、解散。お疲れ様でした。参加者/大橋(健)さん、大橋(貴)さん、加藤さん、喜多さん、北原さん、中川さん、村松さん

講師/早川講師

スタッフ/平林、藤原、坂野

### 次回以降の予定

第十二・十三回

12月7・8日(金・土)

炭焼き・きのご菌打ち

復習

一日目は、移動式炭化炉を使って炭焼きをしてみます。材の仕込み・火入れの後は、きのこの菌打ち。ナラなどの原木にシイタケやナメコを植菌してみます。また、夕方からは少し早い忘年会。可能な方は、小屋宿泊で火の番の付き合いを。なお、ほだ木を持ち帰ることが出来ますので、「ご希望の方は大きめの袋や紐をご持参下さい。」

二日目は、炭出しの後、復習です。保科先生の山林見学・伐木造材を行います。なお、炭出し時はマスク、タオルが必要ですが、炭もご希望の方は持ち帰り頂けますので、米袋などをご持参ください。8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

この時期、積雪や凍結の可能性がありますが、道路状況等、事務局までお問い合わせ下さい。

## リレー通信



森林レジャー? 平野 一美

愛知県の春日井市から通っている平野です。

八年ほど前だと思えますがNHKで放映された番組で、島崎先生と山林塾(島崎山林研修所)の方達の活動が紹介されていきました。その後、図書館で島崎先生の著書「山造り承ります」を見て、KOA 森林塾の事を知ることが出来ました。

その頃、森林ボランティアの団体に所属していて、岐阜県内の各地で一泊二日の日程で、枝打ちや除伐等の作業をしていました。只、この団体は



県が主導している為、交流会が中心で作業は半日だけで、後は自然観察やソバ打ち等をやっていました。一部のメンバーがこれに飽き足らず、自主活動を始めたのもでした。(私自身は最初の頃は自主活動には参加していません) 以前スキ場だった所を鳥が来る公園にしようというところで、ナナカマドやエゴノキなど実のなる木が植えられました。その公園の半分の6haを自主活動の作業場所として提供してもらい、下刈りを中心に六月から十月まで月に二日(原則第二土曜日と翌日の日曜日)活動していました。 下刈りは刈払機と造林鎌を使用しておこなっています。以前は刈払機の台数が少なかったため、鎌を使う人が植栽木の周り五十センチ程を刈り、ツルが巻き付いていれば剪定鋏で処理して次の木に移り、残った部分は、安全のため他の作業者と十分間隔を開けて刈払機を使う人が刈るようになっていたので、植栽木に

傷をつける事も防げました。

数年前に地元の森林組合にお願いして、刈払機の使用方の講習会を数回行いました。その結果として刈払機を使う人が増えたので、安全のため鎌と刈払機は別の場所と離れて作業するようになりまし。個人的には鎌を使う草刈のほうが好きです。炎天下で鎌を振るのはたしかにきつい。しかし、刈り終わつた後に結果が見える達成感と、木陰に座り刈つた草の上を渡つてくる風に吹かれる事の心地よさがなんともいえません。四年前からは活動場所が新たに加わり、高山市の国有林を「ふれあいの森」制度により提供してもらい、間伐を中心に十月・十一月に作業をしています。ただし、高山迄は遠いこと、JRを利用して来る人がいるので、その時間にあわせると初日の集合時間が十時となること、二日目の終了時間を十二時としているので、実際の作業時間は余り多く有りません。また、最初の二年は道路の整備や笹刈りに手を取られたのと天候不良も有り、肝腎の間伐はほとんど出来ませんでした。実際の作業として以下のようなものがありました。

・ペースとなる民宿から現場まで三十分かかるが、その途中の林道に落石が多い所があり、その落石の除去



・現場での歩道の整備。急傾斜の所に階段等の歩道を除いた木で作成。

・笹刈り。太い笹が多く生えており、雪で倒されて地面が見えない程の所も有る。造林鎌では覆っている笹は切れないので、太枝切り鋏や剪定鋏を使って一本ずつ切つていく。

チェーンソーの使用は二年前からで、その年は二台、昨年からはさらに二台増えて四台を交替で使っています。使用にあたっては、県の林政課に所属する担当者より始動の仕方から伐倒方法、かかり木の処理等について指導を受けています。

現場での作業にあたっては天候の悪い事が多く、一昨年の十月の初日は雨が激しく作業は中止となり、「宮の大イチイ」というイチイの大木(推定樹齢二千年、樹高二十五m、幹周約七m)を見に行った後、チェーンソーの講習と分解掃除や目立てなどのメンテナンスを行ったただけで

終わっています。また昨年の十月の二日目の朝は、現場に向かう途中に小雨が雪に変わり、帰路の道路状況を考慮し活動を中止して解散しました。

紹介したものを含め、現在いわゆる森林ボランティアに三つ所属しています。しかし私個人としては「奉仕している」という感覚はなく、「楽しむ」という事からすれば「森林レジャー」という言葉のほうが良いと思います。「レジャー林業」という言葉を見た事もあります。森林レジャーのほうが範囲が広そうであらうという感じがします。

五月の樹木分類から始まった森林塾通年コースも、早いものでこの原稿が森林塾通信に載る頃は、十二月の最終回を残すのみだと思われれます。振り返ってみれば、いまままで体験した事のない測量や測樹、チルホールを使った伐倒、ウィンチでの集材、キャタトラを使う集材と運材等々貴重な経験をさせてもらいました。またチェーンソーについては操作法や安全に関する注意事項を講師の方々にしっかりと教えていただくことが出来ました。これらの経験を生かし残りの森林塾での打撃や今後の「森林レジャー」での作業を安全第一で行いたいと思います。

# リレー通信



ますみヶ丘の風  
水野 永夫

私は瀬戸にいくらかの山があります。戦後、父の時代から拡大造林の動きに協力して植林してきたのですが、ご他聞にもれず間伐がしてありません。仕事をもちながらでは山の手入れも思うに任せなかつたのです。ようやく勤めから解放されて山の手入れを始めましたが、下刈りや雑木の除伐はともかく間伐はやつたことがないので困りました。

周りの人たちも私と同じようなことなので聞くこともできませぬ。いろいろ手を尽くして、島崎先生のことを知り、KOAさんに連絡して森林塾のお世話になることができました。

信州は初めてではないのですが、旅や山では通過するだけで知らないのも同然、この地も飯田線で通過しただけです。この度伊那谷の広さを初めて実感したばかりで

す。この山荘のベランダからみると、手にとるような近くの山に嬉々として生長するヒノキやカラマツが見えます。ベランダとそのヒノキの森との間は緩やかなスロープの裸地で草がきれいに刈り込んであります。その下は段々の耕地が広がって、家々が点在しています。スロープの奥はやや勾配のきつくなつたススキの原から森へと続いています。

近くの山頂からやつてきた風が、ゆつくりと音もなく降り下けた鉢花をゆらしもせず、それでいて滔々と流れ下って行く気配がします。その行き先は天竜川のほとりなのでしょう。七月頃、ここへ毎月やつてきているという人が「いいなあ」といつていました。

植林・下草刈りを済ませた夕方、山道具の見本市が開かれました。ここで「鉦は一生物」と聞いて、おやつと思いましたが、鉦は毎日研いで脛毛が割れるほどの刃をつけて自慢しあつた経験から、そんなにはもつまいと思つたからです。次の日の朝だつたが、Tさんに「鉦は研いで置くといいですよ」と何気なしに声をかけた。Tさんは怪訝そうに「新しくてもですか」と聞き返してきつた。「その方がらくだから」といつたもののピンとこなかつたよつた。

伐木造材の日。午前にはチェーンソーの操作の説明と操作の体験、実際に丸太の玉切りなど。スチール製のチェーンソーは軽くて使いやすくよく切れた。



以前受けた講習では各々がチエーンソーを持ち寄った為に、初心者である私には本来の切れ味がわからずじまいだった。午後は雨のため、急遽チエーンソーの清掃と目立てに当てられた。目立ては一日に二回はやるとの話が印象的。かつての鋸のように研師頼みでは間に合わない。イントラの先生が「こうやってでも研げる」と腰を下ろして子供を抱きかかえるようにして研いでいた。チエーンソーとのかかわりの深さを痛感。

一日にわたる間伐はやはり塾での最高のイベントだった。プロット調査、鳥崎先生の講義で保残木マーク法のイメージがつかめたような気がする。伐倒開始は午後となる。説明を聞いてやってみる。なぜか受け口の斜め伐りがうまくいかない。受け口ができれば八割成功と聞いて食いつがる。枝払い。パツパとリズムで切るといわれても、やたら体中に力が入っているせい、動きが鈍い。ウチで練習あるのみ。負荷をかけるときは全開でとのこと。初耳である。目が覚める思いだ。翌日も間伐。追いつき切りにするがそろわない。あれっと思つて仕方ない。伐倒でも玉切りでもそうだが、早めのチエックが欠かせない。進展が早いだけにチャンスに遅れ勝ちだった。



この間伐ではつきりした。ヒノキを倒した後、枝払いから玉切りまですべてチエーンソーでやってしまふ。鉋は邪魔な山草を払っただけ。鉋や鉤からチエーンソーへの流れは、頭では分っていたつもりだったが、このように現実を突きつけられると自分の考えの甘さを思い知らされる。鉋の選択の迷い、「一生物」への違和感、「鉋研ぎ」の奨めなども鉋が主役だったころの意識にどこかで捉われていたのかもしれない。

林内作業車キヤタトラも優れものであった。材の積み下ろしに反省すべき点があった。丸太をウインチで吊り上げてデッキに収める時、宙釣りの丸太が不意に動くことがある。手動の経験で動いてモタイミングが合わない。相手のウインチ操作も不慣れだし、年齢差もある。機械化の時代、操作するしないにかかわらず現場をよく見ることが先決だと得心。加えて鉋鎌の

経験からか、つい細かなことに目が行き過ぎるようだ。これは山の手入れ全般にいえるような気がする。

通年コースも終盤に近い。鳥崎先生はじめ諸先生方の心温まる熱心なご指導と、同期の仲間の善意と友情に囲まれて愉快に過ごせたことは幸せに思います。適度な湿りと松のオゾンをついばい含んだあの丘のころよい豊かな風の流れとともに終生忘れがたい思い出となり、今後励ましの追い風となってくれらることを祈ります。

### 樹のコラム 山萩と丸葉萩と木萩

豆科萩属の落葉低木、離弁花。どの葉も三出複葉で互生する。秋になるとどこでも良く見かける樹種ですが、葉も花も良く似ていて以外と種類があり、見分けるとなると特徴を知らなければひとくくりになってしまふような植物でもあります。

この三種は葉で見分けますが、良く見比べるとそれぞれ

葉に特徴があります。山萩の葉の長さは、四〜六cm、幅二〜三cm、柄は0.2〜0.4cm。小葉の表面は緑色、裏面は淡緑色で両面には毛があります。縁は全円縁で、先端は円頭又は鈍頭で、中央は針状、基部は広くさび形になります。丸葉萩の葉は、長さ二〜八cm、幅1.5〜2.5cmと山萩よりひとまわり程小さいです。柄は0.1〜0.2cmで、小葉の表面は緑色でわずかに散毛があり、裏面は灰白緑色で全面に毛があります。縁は全縁で、先端が凹み、中央は針状、基部は円形になります。この二種は葉の先端と基部で見分けられますが、木萩と山萩を見分けるのは結構見分けにくく、両種同じように見えてきます。木萩の樹高は、一〜三m、小葉の長さは二〜四cm、幅2.5〜3cm、柄は0.2〜0.3cmで、葉の表面は無毛、濃い緑色、裏面は灰緑色で全面に毛があります。縁は全縁で大きな波状になるの



が特徴です。先端は鋭突頭、基部はくさび形になります。三種をまとめると、山萩の葉は両面に毛があり、葉の先端は円頭、もしくは鈍頭で基部は広くさび形。木萩の葉は表面は無毛、裏面は全面に毛があり、葉の先端は鋭く、縁は波状、基部はくさび形。丸葉萩は両面に毛があり、葉の先端はへこむ。縁は全縁、基部は円形。私の覚え方ですが、自分で、絵に描いてみると以外に頭に入りますよ。

花ですが、山萩は七月〜九月、木萩は六月〜九月、丸葉萩は八月〜十月に咲きます。山萩の花序は基部につく葉より長くなり、丸葉萩の花序は基部につく葉より短くなりま

す。この二種の花は紅紫色になります。木萩の花は淡黄白色で、旗弁の中央部と翼弁が紫紅色を帯びるのが特徴なので、他の二種との区別はしやすいです。いずれも豆科特有の優美な花を咲かせ、私たちの目を楽しませてくれます。この三種は山地帯下部の陽地に好んでよく生えます。萩は日本の秋を代表する花で、秋の七草の中にも入っています。又、昔から万葉集の中でも古の人々は萩の花を題材にして、百四十一首詠われています。その中のいくつかををみなへし 秋萩交じる 蘆城の野 今日を始めて 万世に見む

(おみなえしと秋萩が交じって咲いている 蘆城の今日を始めてし 一つの世までもずつと見てゆこう)

何すとか 君をいとむ 秋萩の その初花の 嬉しきものを (どうしてあなたを嫌ったりしましろう 秋萩の初花のようにに会えば嬉しく思うのですの)

こぼれるように咲くこの萩の花はなんと風情があり、秋晴れの空の下でこの花にあうと、ああ、萩がやってきたんだなとしみじみ感じます。植物って自分に合う季節を知っていて咲いているように思ふんですが、みなさんどう思いますか?

「鶯」

### おわりに

遅れて色づき始めたカラマツの黄葉が、茶色に変わって落ちるまでの秋。加速度をつけて移ろいはじめた季節は、早くも冬が近いことを予感させる。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994



E-mail: sh-sakano@koanet.co.jp  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062 (開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp